

図 4. 時間別硫化水素中毒発生頻度 (平成 20 年 1~12 月). 発生時間の不明な 13 例を除く 63 例, 男性 46 例, 女性 17 例.

表 1. 23 区別硫化水素中毒発生頻度（平成 20 年 1～12 月）.

城東	江東区	1
	墨田区	4
	江戸川区	2
	葛飾区	10
	足立区	3
	荒川区	2
		22
城南	渋谷	3
	目黒区	3
	大田区	6
	品川区	3
		15
城西	中野区	4
	杉並区	4
	世田谷区	2
		10
城北	北区	5
	豊島区	3
	板橋区	4
	練馬区	2
		14
中央	千代田区	4
	中央区	1
	台東区	2
	新宿区	4
	港区	1
	文京区	3
		15

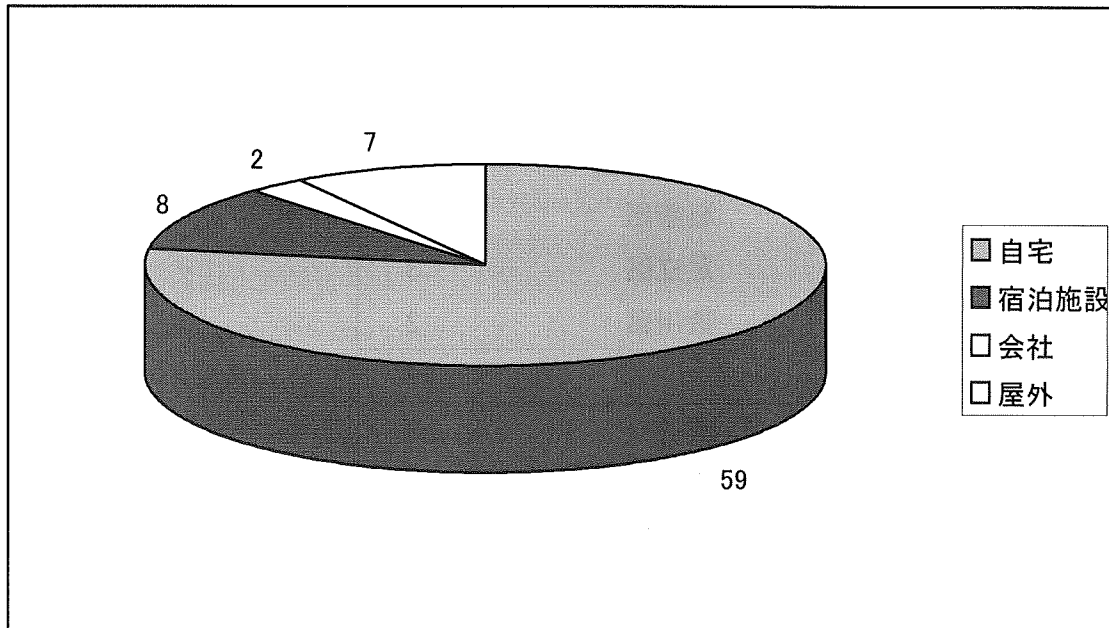


図 5-1. 硫化水素中毒死の発生場所.

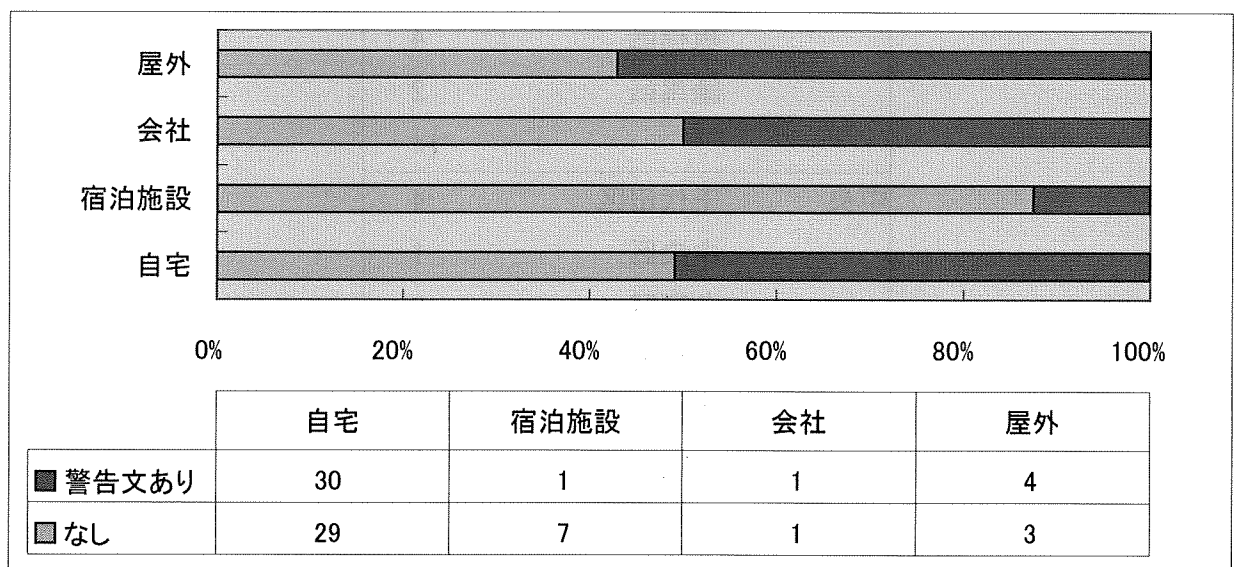


図 5-2. 硫化水素中毒死の発生場所と警告文の有無.

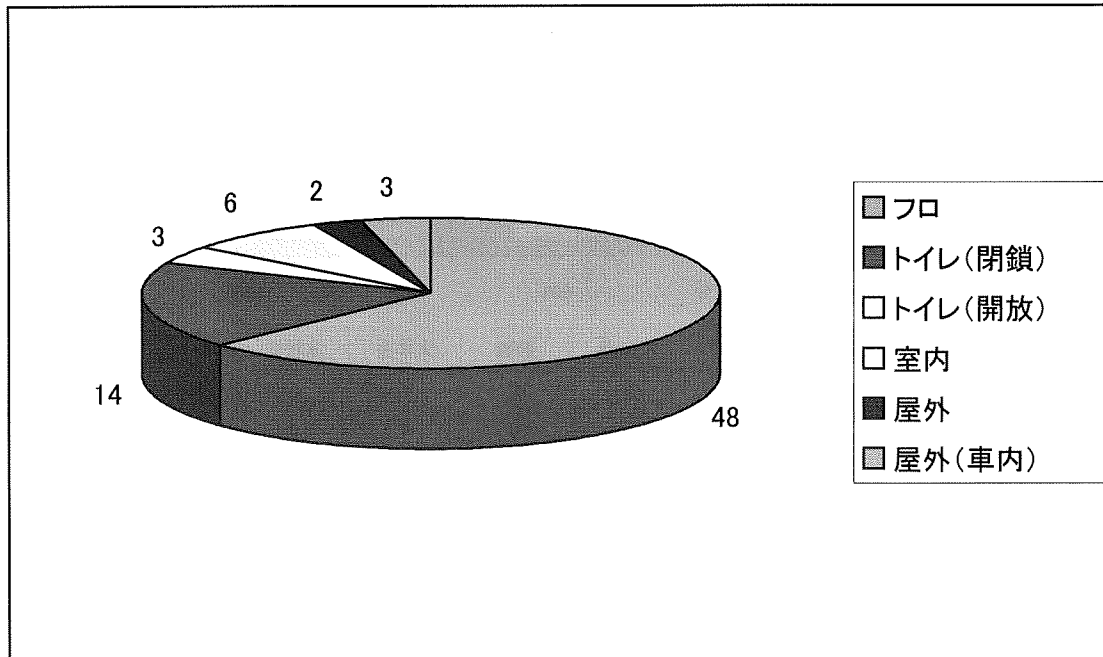


図 6-1. 硫化水素発生場所.

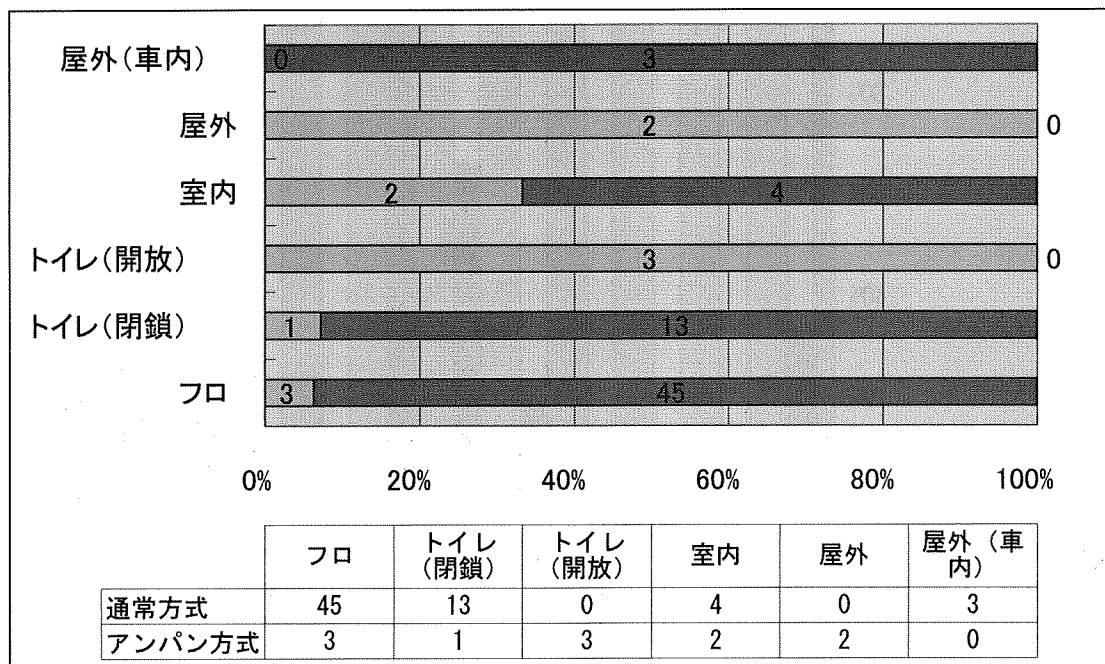


図 6-2. 硫化水素発生吸引方法.

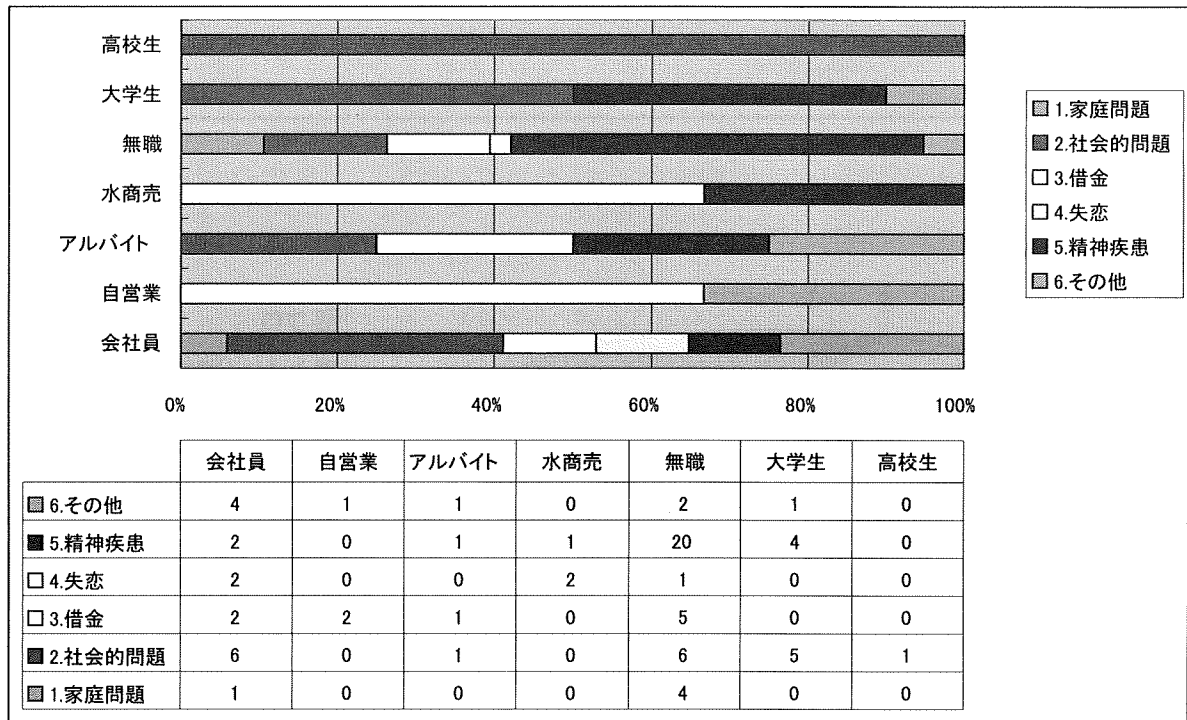


図 7. 硫化水素中毒死例の職業および背景.

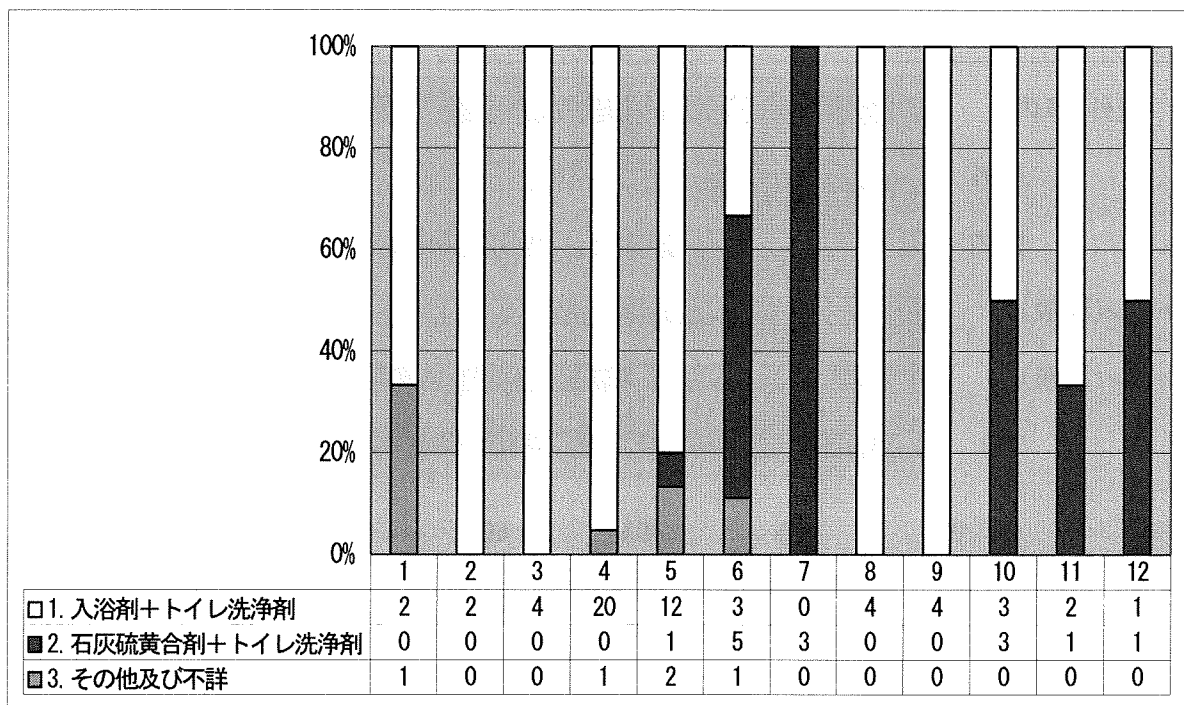


図 8. 月別使用薬物の変遷 (平成 20 年 1~12 月).

平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）

「ネット世代の自殺関連行動と予防のあり方に関する研究」

分担研究報告書

自殺リスクの高い若年者の特徴に関する研究

研究分担者 松本 俊彦（国立精神・神経センター精神保健研究所）

研究協力者 勝又陽太郎（国立精神・神経センター精神保健研究所）

研究要旨：

【目的】本研究は、中高生におけるインターネット上の自殺関連情報へのアクセス経験の実態、およびインターネット上での自殺関連情報へのアクセスした経験をもつ若年者の特徴を明らかにすることを目的として実施された。

【方法】中高生 1,364 名を対象に、独自に作成した自記式質問紙による調査をおこなった。

【結果と考察】インターネット上において自殺関連情報にアクセスした経験のある者は、中高生全体の 6.2%にのぼり、10 代後半の高校生だけでなく、10 代前半の中学生にまで広がりを見せていることが明らかとなった。また、インターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験と自殺関連行動の経験との間には有意な関連性が認められた。さらに、インターネット上において自殺関連情報にアクセスした経験のある者は、「自己破壊的・独力解決タイプ」、「孤独タイプ」、「他者希求タイプ」の 3 つのタイプに分類されることも示唆され、それぞれのタイプに応じた情報発信が必要であるものと考えられた。

【結論】本研究はインターネット利用と自殺関連行動との関係を調べた数少ない研究であり、わが国における若年者の自殺予防対策に寄与する新たな知見を提示することができた。

A. 研究目的

若年世代の自殺は世界的に精神保健上の重要な課題となっている¹⁾。わが国では、平成 20 年に硫化水素自殺が問題化した²⁾が、その主たる層を構成していたのが若年者であったことに加え、具体的な企図手段に関する情報がインターネット上の web サイトを介して広まったことが特徴であった。

内閣府の調査によれば、インターネットの利用者層は小学生の半数程度にまで

広がっており、高校生ではパソコンでのインターネット利用経験者が 74.5%、携帯電話等からの利用経験者にいたっては 95.5%にのぼるとされている。従来から若年者はメディアの影響を受けやすく、自殺の伝染が起こりやすい集団であるとされているが²⁾、このように若年者のインターネットへのアクセシビリティが高まった分、インターネット上での自殺関連情報に接する機会も増え、結果的に先の硫化水素自殺のような群発自殺が生じる

可能性も否定できない。したがって、今後の若年世代における自殺関連行動の予防策には、こうしたインターネットの利用の実態を考慮に入れておくことが必要不可欠であると考えられる。

さて、そもそもこうしたインターネット上の自殺関連情報にアクセスする若年者とはどのような特徴を持っているのだろうか。真っ先に思い浮かぶのは、「自殺の危険性が高い」ということだろう。実際に我々が以前におこなった調査によれば³⁾、自殺念慮の経験とインターネット上で自殺関連情報にアクセスした経験は有意に関連していることが明らかにされている。

また、こうした自殺念慮の経験やインターネット上の自殺関連情報へのアクセス経験に、周囲の大人や学校の友人に対する信頼感の低さといった人間関係上の問題が同時に関連していることもわかっている³⁾。自己破壊的な行動をとる者の特徴として、適切な援助希求行動をとらず周囲から孤立しがちであることは従来から指摘されており、中には心理的な視野狭窄状態に陥ってしまい、適切な対処行動がとれる状態にない者がいることも報告されてきた⁴⁾。一方で、近年の研究では、専門家に繋がりにくい若年の自傷経験者がインターネットを用いて援助を求めやすくなるとの指摘や²⁾、そもそも若年者はインターネットの利用自体がストレスフルなライフイベントに対する対処行動となっているとの報告⁵⁾もあるこ

とから、インターネット上の自殺関連情報にアクセスする若年者の自殺関連行動とあわせて、こうした援助希求行動や対処行動の特徴を明らかにすることが今後の予防対策において重要であると考えられる。

本研究では、中高生におけるインターネット上の自殺関連情報へのアクセス経験の実態、およびインターネット上での自殺関連情報へのアクセスした経験をもつ若年者の特徴を明らかにすることを目的として、中高生に対する自記式質問紙調査を実施した。

B. 研究方法

本研究の質問紙調査は、神奈川県内の2つの公立中学校と3つの公立高等学校の生徒計1,556名（中学生720名、高校生836名）を対象に、2007年12月～2008年12月にかけて実施された。調査は研究分担者が生徒向けに行った薬物乱用防止講演会の後に、独自に開発した無記名の自記式質問紙を用いて実施された。記入済み質問紙は個別に封筒に入れて封をした上で教員によって回収され、開封されない状態のまま、分担研究者のもとに送られた。調査への同意が得られた者は1,416名（回収率91.0%）であり、欠損値の確認された事例を除く最終的な分析対象は、全調査対象者の87.7%に当たる1,364名（男子673名、女子691名：平均年齢14.97歳、SD=±1.37歳）であった。対象者の中学、高校別の内訳は、中学生625名（男子316名、女子309名：平均年齢13.68歳、SD=±0.78歳）、高校生739名（男子357名、女子382名：平均年齢16.06歳、SD=±0.60歳）であった。

(倫理面への配慮)

調査は連結不可能匿名化がなされた自記式質問票調査であり、養護教諭との連携体制のもとで、事前に学校およびPTAから質問紙の確認と同意を得たうえで実施された。さらに、分担研究者のメールアドレスを生徒に公開し、調査後の相談体制も確保した。

1) 研究 1: インターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験と自殺関連行動

研究 1 では、まず、中学生 625 名、高校生 739 名の計 1,364 名を対象として、インターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験率を男女別に算出した。さらに、「自己切傷」、「自殺の計画」、「自殺念慮」の 3 つの自殺関連行動の経験と、インターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験との関連性について検討した。

分析に用いた変数は「インターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験」、「自己切傷の経験」、「自殺を計画した経験」、「自殺念慮の経験」の 4 つであった。中学生調査と高校生調査では一部異なる質問項目を用いており、本研究で用いた変数の中では「自殺念慮」の質問項目のワーディングが異なっていたため、自殺関連行動とインターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験との関連性の検討に関しては、中学生のデータと高校生のデータを分けて分析することとした。なお、中学生、高校生のそれぞれに用いた質問紙は、資料として添付した。

各質問項目には、「はい」もしくは「い

いえ」のどちらかで回答してもらった。

統計的解析は、記述統計と χ^2 検定を用いておこない、有意確率は両側検定で 0.1%未満とした。これらの統計解析はすべて Microsoft Office Excel 2003 および SPSS 14.0 J for Windows を使用しておこなった。

2) 研究 2: インターネット上における自殺関連情報アクセス経験者の特徴

研究 2 では、インターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験者の特徴をより詳細に検討するため、研究 1 でインターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験があると回答した高校生 38 名 (男子 21 名、女子 17 名) を対象に、これまでの自殺関連行動の経験、普段の対処行動、および周囲の人との関係性といった特徴にもとづいた類型化をおこなった。

分析に使用した変数は、「自己切傷の経験」、「自殺を計画した経験」、「自殺念慮の経験」、「インターネット上の人物への信頼」、「学内の友人への信頼」、「周囲の大人への信頼」、「友人に対する相談への期待」、「大人に対する相談への期待」、「ネット上の情報への期待」、「独力での問題解決」、「孤独感」、「自閉的ストレス対処」、「ネット利用によるストレス対処」の 13 変数であり、質問にはすべて「はい」もしくは「いいえ」で回答してもらった。分析では、まず、38 サンプル×13 カテゴリのクロス表を作成した上で、数量化 3 類を用いてサンプルとカテゴリの関係性について解釈をおこなった。さらに、同一の変数を用いてクラスタ分析をおこない、その結果を

先の数量化3類の散布図に重ね合わせることで、38事例の類型化を試みた。これらの統計解析はすべて Microsoft Office Excel 2003 および SPSS 14.0 J for Windows を使用しておこなった。

C. 研究結果

1) 研究1：インターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験と自殺関連行動

インターネット上において自殺関連情報にアクセスした経験のある者は、中学生で47名(7.5%)、高校生で38名(5.1%)であり、中高生全体では85名(6.2%)であった。男女の経験率に有意差は見られず、中学生と高校生の経験率を比較した場合にも有意な差は見られなかった(表1)。

次に、インターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験と3つの自殺関連行動(自己切傷、自殺計画、自殺念慮)の経験との関連性を検討した結果、インターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験とすべての自殺関連行動の経験との間において有意な関連性が認められた(表2)。

また、経験した自殺関連行動の組み合わせとインターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験との関係を検討した結果、中高校生ともに、自殺関連行動を全く経験していない群(非自殺関連行動群)と3つの自殺関連行動のうちどれか一種類のみを経験していた群(自殺関連行動単数群)と比較して、二種類以上の自殺関連行動を経験していた群(自殺関連行動複数群)のインターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験率が高かった(図1、図2)。なお、

自殺関連行動の組み合わせごとの、インターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験の度数と割合については、図3と図4に示した。

2) 研究2：インターネット上における自殺関連情報アクセス経験者の特徴

13の変数を用いて、インターネット上における自殺関連情報にアクセスした経験を持つ高校生38事例をサンプルとした数量化3類をおこない、累積説明率と解釈可能性を判断基準としてⅡ軸まで検討した。固有値は、第Ⅰ軸が0.165、第Ⅱ軸が0.132で、Ⅱ軸までの累積寄与率は29.7%であった。このⅠ軸とⅡ軸のカテゴリースコアを用いて、各変数とサンプルを空間上にプロットした後、同じデータを用いてクラスタ分析をおこない、サンプルの分類結果を同じ空間上に布置した(図5)。各変数とサンプルの位置関係を総合的に解釈した結果、インターネット上における自殺関連情報アクセス経験者は、自殺関連行動の経験、普段の対処行動、および周囲の人との関係性といった特徴から、「自己破壊的・独力解決タイプ(自殺関連行動に親和性があり、独力で問題の解決を図ろうとする)」、「孤独タイプ(他者を求めてはいるが、現実の身近な関係の中で孤立している)」、「他者希求タイプ(現実の身近な関係性へ信頼があり、問題解決場面でも他者指向的)」の3つのタイプに分類された。

D. 考察

1) インターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験と自殺関連行動

本研究では、比較的大規模なサンプルを用いて、一般の中学生、高校生におけ

るインターネット上の自殺関連情報へのアクセス経験率を明らかにすることができた。男女間、および中学生と高校生との間でインターネット上の自殺関連情報へのアクセス経験率に統計的有意差はなく、中学生と高校生で同程度の経験者がいることが確認された。この結果は、インターネット利用と自殺の問題を議論する際に、10代前半の比較的若年の層までをターゲットに含める必要性を示唆しているものと考えられる。

また、本研究では、インターネット上の自殺関連情報へのアクセス経験と自殺関連行動との関連性についても明らかにすることができた。この結果は、「自殺の危険性が高い者がインターネット上の自殺関連情報にアクセスしやすい」といった一般的言説を支持する一つの結果であると言えるだろう。

さて、自殺関連行動複数群のインターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験率が、非自殺関連行動群と自殺関連行動単数群と比較して高かったという結果については、先述のインターネット上の自殺関連情報へのアクセス経験と自殺関連行動との関連性が有意であったことを踏まえれば、ごく当然の結果であると言えるだろう。むしろ重要なのは、自殺関連行動複数群のアクセス経験率だけが高く、非自殺関連行動群と自殺関連行動単数群との間に大きな「差がなかった」ということなのではないだろうか。単純に考えれば、非自殺関連行動群、自殺関連行動単数群、自殺関連行動複数群の順で、段階的にアクセス経験率が増えるように思われるが、中学生、高校生ともにこうした段階的な違いは見られなかった。つまり、インターネット上の自殺

関連情報へのアクセス経験と自殺関連行動との間には関係はあるが、必ずしも各自殺関連行動とそれぞれの特徴に合ったサイトにアクセスするという行為が一对一で対応（例えば、自傷行為をしているので自傷系サイトを見る、自殺念慮を抱いたので自殺サイトを見る）しているわけではなく、問題がこじれて、自傷や自殺念慮といった自殺関連行動が複雑に重なっていくことが、インターネット上の自殺関連情報へのアクセスと関係している可能性があるものと考えられた。いずれにせよ、本研究の結果は仮説的段階であり、今後さらなる検証が必要である。

2) インターネット上における自殺関連情報アクセス経験者の特徴

研究2の結果、インターネット上における自殺関連情報アクセス経験者は、自殺関連行動の経験、普段の対処行動、および周囲の人との関係性といった特徴から、「自己破壊的・独力解決タイプ」、「孤独タイプ」、「他者希求タイプ」の3つのタイプに分類された。これらの結果から、インターネット上における自殺関連情報アクセス経験者の中でも、自殺関連行動との親和性の観点から、「自己破壊的・独力解決タイプ」が自殺の危険性の最も高い一群であり、インターネットと関連した自殺の予防対策を講じる際の重要なターゲットとなる可能性が高い。この一群は問題対処場面において、独力で問題解決を図る、あるいは人と会わずに閉じこもりたくなるといった特徴を併せ持っているため、「身近な人への相談」というお決まりのフレーズが通用しにくいことが推察される。こうした特徴は、従来から自殺者の特徴として知られてい

る「心理的視野狭窄」と重なる部分もあるかもしれないが、他のタイプとの相対的な比較から、むしろ「他人を信頼しない・他人に期待しない」といった身近な重要他者との信頼関係の問題や、「他者にうまく感情を伝えることができない」といった対処スキルの問題を含んでいるとも思われる。したがって、インターネット上においては、彼らのこうした問題解決の指向性に合わせた形で情報を発信することが重要であると同時に、現実の教育場面においても対処スキルを向上させるためのトレーニングが必要となってくるだろう。

一方で、「孤独タイプ」、「他者希求タイプ」の2つのタイプは、「自己破壊的・独力解決タイプ」と比べて自殺関連行動の経験との親和性は低いものの、若年者に顕著な「伝染しやすさ」を考えれば、決して無視することはできない。特に、「孤独タイプ」は、他者からの援助を希求していても、現実の対人関係に何らかの問題を抱えて孤立している可能性が高いため、インターネット上における自殺関連情報への暴露から自殺の実行までの間に防御壁がなく、インターネットを介した自殺関連行動の伝染のリスクが高い一群と言えるかもしれない。したがって、まずは、インターネット上で、単純であっても具体的な問題解決のための情報を提供し、現実の援助資源に繋げていくことが重要であると考えられる。

このように、インターネットは多くの人が容易にアクセス可能な情報ツールであるだけに、支援のためのツールとして活用するためにも、「孤立」や「相談」といったこれまでの自殺予防対策のキーワードをより多層的に吟味し、アクセス

してくる人の特徴に合わせた情報を発信していく必要があるだろう。

3) 本研究の限界と今後の展望

本研究にはいくつかの重要な方法論上の限界がある。まず、調査は限られたごく一部の地域で実施されているため、本研究で用いたデータには偏りがあり、したがって、得られた結果をわが国全体の傾向として一般化できるわけではない。また、調査に先立って実施された薬物乱用防止講演会の影響も考慮に入れていない。さらに、自殺関連行動の経験やインターネット上での自殺関連情報へのアクセス経験についても、生涯経験を問うているだけであり、時系列の直接的な関係を調べることはできなかった。

このように、本研究はあくまでも探索的な仮説生成段階の研究であり、今後さらなる検証が必要ではあるが、数少ないこの分野の研究に着手し、新たな仮説を提示することができた。

E. 結論

本研究では、中高生におけるインターネット上の自殺関連情報へのアクセス経験の実態、およびインターネット上での自殺関連情報へのアクセスした経験をもつ若年者の特徴を明らかにし、近年、わが国において問題となっている若年者のインターネットを介した自殺に対する介入手段について検討をおこなった。本研究で提示された仮説を今後もさらに発展させ、若年者の自殺予防対策を充実させていくことが必要である。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Katsumata Y, Matsumoto T, Kitani M, Takeshima T. Electronic media use and suicidal ideation in Japanese adolescents. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, The Japanese Society of Psychiatry and Neurology, 62(6), 744-746, 2008

2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1.特許取得 なし

2.実用新案登録 なし

3.その他 なし

I. 引用文献

1. Bertolote JM, Fleischmann A, Leo DD, Wasserman D. Suicide and mental disorders: do we know enough? *Br. J. Psychiatry*, 183: 382-383, 2003
2. Hawton K, Rodham K, Evans E. Self-help, Crisis Line, the Internet and the Media and Deliberate Self-harm. In: *By Their Own Young Hand: Deliberate Self-harm and Suicidal Ideas in Adolescents*. Jessica Kingsley Publisher, London, 2006; 160-173.
3. Katsumata Y, Matsumoto T, Kitani M, Takeshima T. Electronic media use and suicidal ideation in Japanese adolescents. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 62(6), 744-746, 2008
4. 高橋祥友. 自殺の危険. 金剛出版, 1992
5. Leung L. Stressful life events, motives for Internet use, and social support among digital kids. *Cyberpsychology*

表 1. 中高生のインターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験

		インターネット上の自殺関連情報への アクセス経験
中学生	男子(n=316)	23 (7.3%)
	女子(n=309)	24 (7.8%)
	全体(n=625)	47 (7.5%)
高校生	男子(n=357)	21 (5.9%)
	女子(n=382)	17 (4.5%)
	全体(n=739)	38 (5.1%)
中・高生	男子(n=673)	44 (6.5%)
	女子(n=691)	41 (5.9%)
	全体(n=1,364)	85 (6.2%)

表 2. インターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験と自殺関連行動

中学生(n=625)	インターネット上の自殺関連情報へのアクセス経験		χ ²	P値
	経験有り (n=47)	経験無し (n=578)		
自己切傷	22 (46.8%)	44 (7.6%)	70.702	p<0.001
自殺計画	21 (44.7%)	29 (5.0%)	92.908	p<0.001
自殺念慮	35 (74.5%)	193 (33.4%)	31.650	p<0.001
高校生(n=739)	インターネット上の自殺関連情報へのアクセス経験		χ ²	P値
	経験有り (n=38)	経験無し (n=701)		
自己切傷	13 (34.2%)	34 (4.9%)	52.175	p<0.001
自殺計画	15 (39.5%)	24 (3.4%)	93.712	p<0.001
自殺念慮	24 (63.2%)	121 (17.3%)	48.146	p<0.001

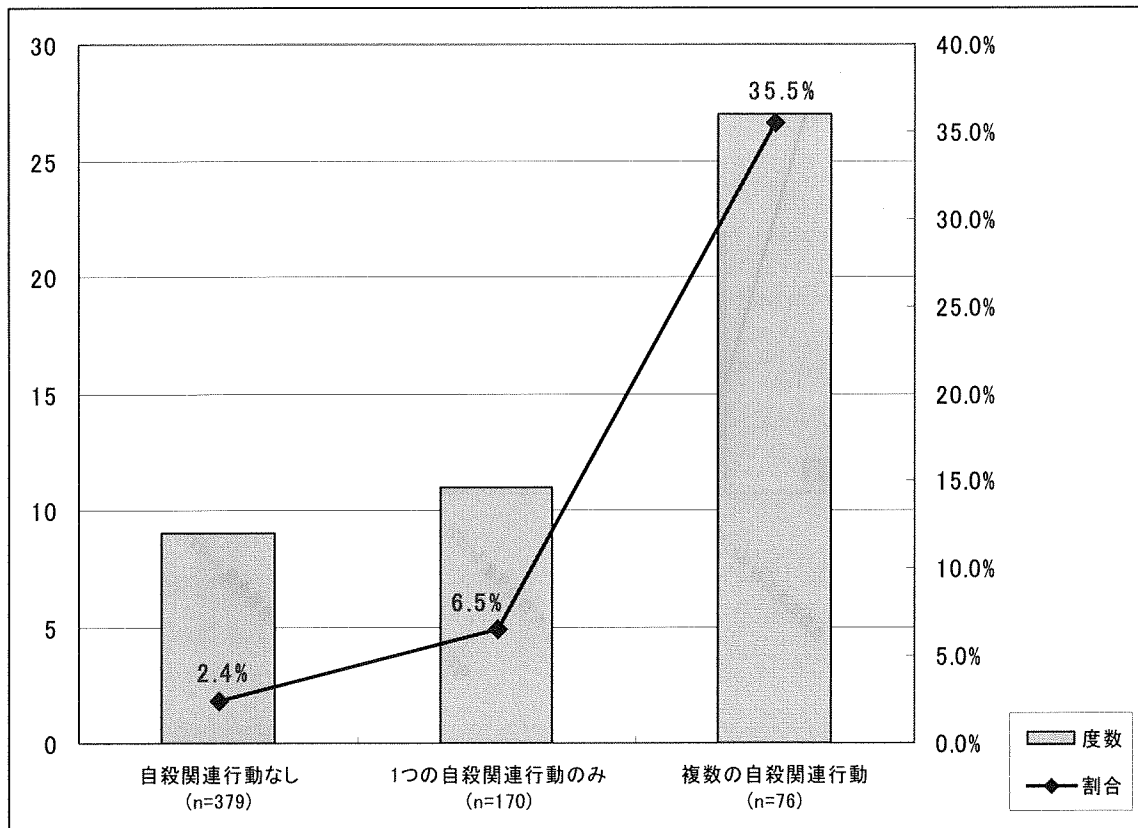


図 1. 自殺関連行動の重複とインターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験 (中学生)

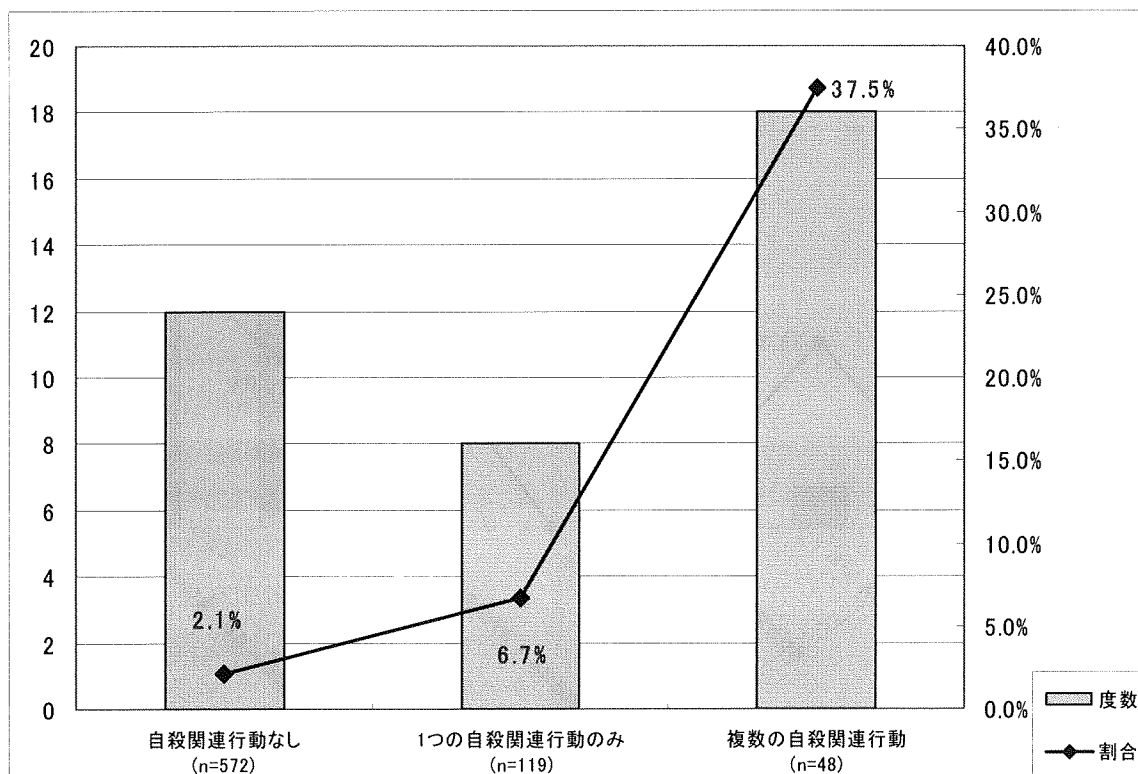


図 2. 自殺関連行動の重複とインターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験 (高校生)

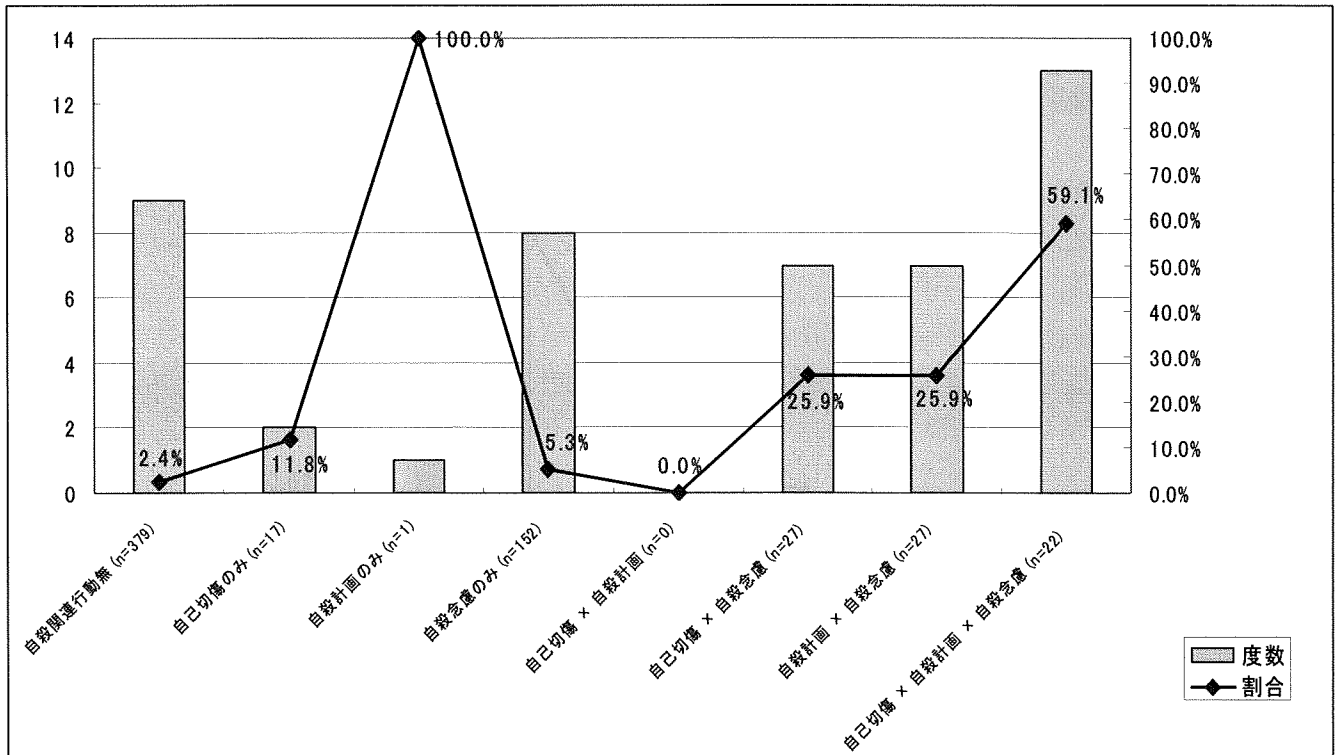


図3. 自殺関連行動の組み合わせとインターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験（中学生）

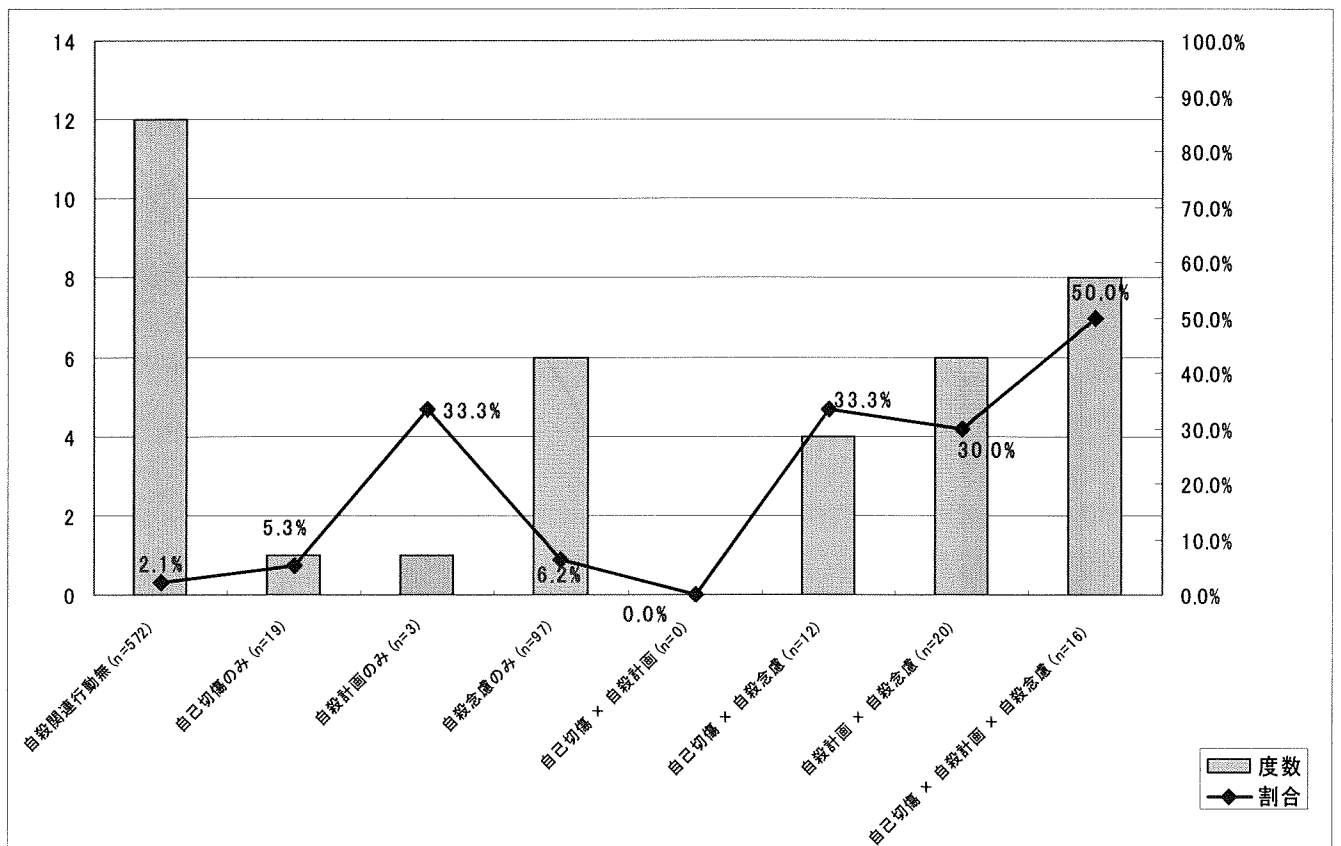


図4. 自殺関連行動の組み合わせとインターネット上における自殺関連情報へのアクセス経験（高校生）

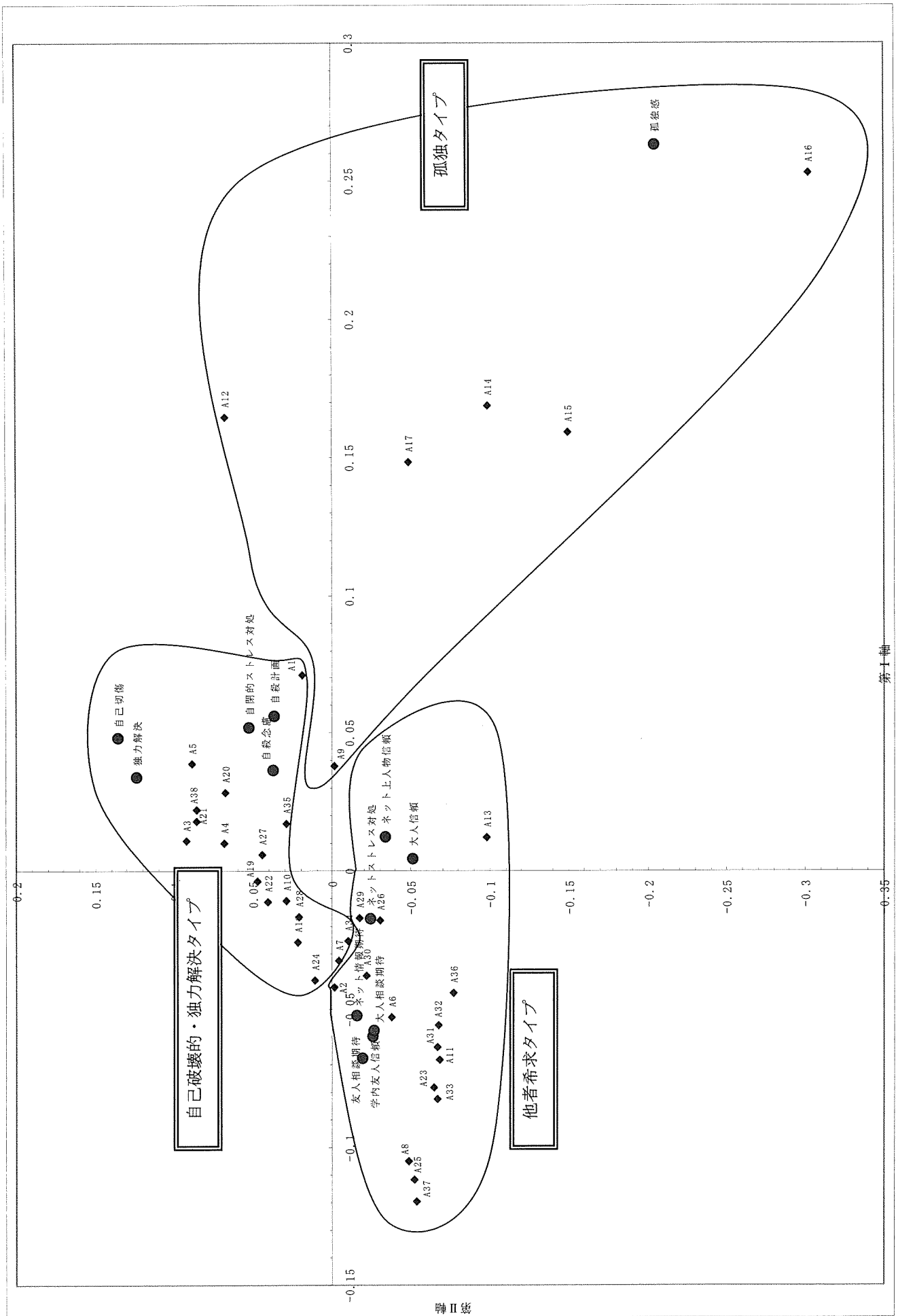


図5. インターネット上における自殺関連情報アクセス経験者の特徴

資料 1. 中学生用調査票

1. あなたの年齢を教えてください。	()歳	
2. あなたの性別を教えてください。	1.男	2.女
3. あなたは何人きょうだいですか？	()人	
しつもん よ 質問をよく読んで、あてはまるものを「○」でかこんでください。		
4. あなたはこれまでに、刃物や鋭利なものでわざと自分の身体を傷つけたことがありますか？	1.はい	2.いいえ
5. あなたはこれまでに、自分のこぶしでわざと壁をなぐったり、自分の頭をわざと壁にぶつけたことがありますか？	1.はい	2.いいえ
6. あなたはこれまでに、火のついたタバコをわざと自分の身体に押しつけたことがありますか？	1.はい	2.いいえ
7. あなたはこれまでに、死んでしまいたいと考えたことがありますか？	1.はい	2.いいえ
8. あなたはこれまでに、生きていても意味がないと思ったことがありますか？	1.はい	2.いいえ
9. あなたはこれまでに、真剣に死ぬことを計画したことがありますか？	1.はい	2.いいえ
10. あなたは誰のことも信頼したり期待したりせず、自分一人で生きていこうと思っていますか？	1.はい	2.いいえ
11. あなたはこれまでに、イライラした気持ちをまぎらわせるために、人に暴力をふるってしまったことがありますか？	1.はい	2.いいえ
12. あなたは、イライラした気持ちを、人にうまく言葉で伝えることができますか？	1.はい	2.いいえ
13. あなたは、太ることがとても怖いですか？	1.はい	2.いいえ
14. あなたは、めちゃめちゃに食べたこと（過食したこと）がありますか？	1.はい	2.いいえ
15. あなたの知人で、ドラッグを使ったことがあるという人はいますか？	1.はい	2.いいえ
16. あなたは、人からドラッグを勧められたことがありますか？	1.はい	2.いいえ
17. あなたはドラッグを使ったことがありますか？	1.はい	2.いいえ
18. あなたはインターネット上の情報を信用していますか？	1.はい	2.いいえ
19. あなたはインターネットを使って、自殺や自傷行為についての情報を調べたことがありますか？	1.はい	2.いいえ
20. あなたはインターネットを使って、ドラッグについての情報を調べたことがありますか？	1.はい	2.いいえ
21. あなたはインターネットや携帯サイトで知り合った人の中で、実際に会ったことがなくても、信頼できる人がいますか？	1.はい	2.いいえ
22. あなたは携帯電話で裏サイトを見たことがありますか？	1.はい	2.いいえ

23. あなたは友達からメールの返信がすぐに来ないと、嫌われていると思って不安になりますか？	1.はい	2.いいえ
24. あなたはインターネットや携帯サイトの書き込みを見て傷ついたことがありますか？	1.はい	2.いいえ
25. あなたには同じ学校の人以外で、年上の友達がいますか？	1.はい	2.いいえ
26. あなたには学校に行っていない友達がいますか？	1.はい	2.いいえ
27. あなたは同じ学校の友達のことを信頼していますか？	1.はい	2.いいえ
28. あなたはなるべく友達とはトラブルにならないように毎日気をつけていますか？	1.はい	2.いいえ
29. あなたの周りには信頼できる大人がいますか？	1.はい	2.いいえ
30. あなたは自分の親のことを信頼していますか？	1.はい	2.いいえ
31. あなたは毎日それなりに楽しいと思って過ごしていますか？	1.はい	2.いいえ
32. あなたは将来の成長した自分が楽しみですか？	1.はい	2.いいえ
33. あなたは学歴や資格が社会に出る上で一番大切だと思いますか？	1.はい	2.いいえ

最後の質問です。

		あてはまらない	あてはまらない やや	どちらとも いえない	あてはまる やや	あてはまる
あなたに当てはまるものを「あてはまらない」「ややあてはまらない」「どちらともいえない」「ややあてはまる」「あてはまる」から1つだけ選んで「○」をつけてください。						
1. 少なくとも人並みには、価値のある人間である。	あてはまらない	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
2. 色々な良い素質をもっている。	あてはまらない	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
3. 敗北者だと思ふことがよくある。	あてはまらない	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
4. 物事を人並みには、うまくやれる。	あてはまらない	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
5. 自分には、自慢できるところがあまりない。	あてはまらない	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
6. 自分に対して肯定的である。	あてはまらない	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
7. だいたいにおいて、自分に満足している	あてはまらない	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
8. もっと自分自身を尊敬できるようになりたい。	あてはまらない	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
9. 自分は全くだめな人間だと思ふことがある。	あてはまらない	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
10. 何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思ふ。	あてはまらない	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる

質問は以上でおしまいです。ご協力、どうもありがとうございます。

資料 2. 高校生用調査票

1. あなたの年齢を教えてください。	()歳	
2. あなたの性別を教えてください。	1.男	2.女
3. あなたは自分を入れて何人きょうだいですか？	()人	
質問をよく読んで、あてはまるものを「○」でかこんでください。		
4. あなたはこれまでに、刃物や鋭利なものでわざと自分の身体を傷つけたことがありますか？	1.はい	2.いいえ
5. あなたはこれまでに、本気で死んでしまいたいと考えたことがありますか？	1.はい	2.いいえ
6. あなたはこれまでに、真剣に死ぬことを計画したことがありますか？	1.はい	2.いいえ
7. あなたはこれまでに、誰かに復讐したい気持ちから死のうと考えたことがありますか？	1.はい	2.いいえ
8. あなたはこれまでに、死ぬことが唯一自分の問題を解決することができる手段だと考えたことがありますか？	1.はい	2.いいえ
9. あなたはこれまでに、イライラした気持ちをまぎらわせるために、人に暴力をふるってしまったことがありますか？	1.はい	2.いいえ
10. あなたは、イライラした気持ちを、人にうまく言葉で伝えることができますか？	1.はい	2.いいえ
11. あなたはインターネットを使って、自殺や自傷行為についての情報を調べたことがありますか？	1.はい	2.いいえ
12. あなたはインターネットや携帯サイトで知り合った人の中で、実際に会ったことがなくても、信頼できる人がいますか？	1.はい	2.いいえ
13. あなたは友達からメールの返信がすぐに来ないと、嫌われていると思って不安になりますか？	1.はい	2.いいえ
14. あなたは普段、ストレス解消のためにインターネットや携帯サイトを利用しますか？	1.はい	2.いいえ
15. あなたはインターネットや携帯サイトの書き込みを見て傷ついたことがありますか？	1.はい	2.いいえ
16. あなたは同じ学校の友達のことを信頼していますか？	1.はい	2.いいえ
17. あなたの周りには信頼できる大人がいますか？	1.はい	2.いいえ
18. あなたは困ったとき、友達に相談すれば、自分の悩みの解決に役立つと思いますか？	1.はい	2.いいえ
19. あなたは困ったとき、周囲の大人に相談すれば、自分の悩みの解決に役立つと思いますか？	1.はい	2.いいえ
20. あなたは困ったとき、インターネット上で情報を得れば、自分の悩みの解決に役立つと思いますか？	1.はい	2.いいえ

21. あなたは困ったとき、自分一人で問題を解決しなければならぬと思いませんか？	1.はい	2.いいえ
22. あなたは、たとえ一度切れてしまった人間関係でも、元に戻ると思いませんか？	1.はい	2.いいえ
23. あなたは自分の人生で一度の失敗も許されぬと思いませんか？	1.はい	2.いいえ
24. あなたは自分の人生がうまくいくかどうかは、すべて自分次第だと思いませんか？	1.はい	2.いいえ
25. あなたは悩んでいる友達に対して、自分から話しかけてみようと思いませんか？	1.はい	2.いいえ
26. あなたは自分が周りから受け入れられておらず、一人ぼっちだと感じていますか？	1.はい	2.いいえ
27. あなたは将来の成長した自分が楽しみですか？	1.はい	2.いいえ
28. あなたは、何もかもうまくいなくなったら、最後は死んでしまえばいいと思いませんか？	1.はい	2.いいえ
29. あなたは精神的に傷ついた後、気持ちが回復するまでに2週間以上かかりますか？	1.はい	2.いいえ
30. あなたは、精神的に辛くなると、人と会わずに一人で閉じこもってしまいたいと思いませんか？	1.はい	2.いいえ
31. あなたは親友だと思っている友達に対して、その人から嫌われてしまうのではないかと、話さないままにしていることがありますか？	1.はい	2.いいえ
32. あなたは友達と真面目な話をするのは、恥ずかしいことだと感じますか？	1.はい	2.いいえ
33. あなたの周りには、世間の常識から大きくはずれているように見えても、尊敬できるような生き方をしている人がいますか？	1.はい	2.いいえ
34. あなたは自分の悩みを人に打ち明けるときにはいつも、どのように話を切り出したらいいかかわらないと感じますか？	1.はい	2.いいえ
35. あなたは自分の気持ちを人に伝えるときに、声を出して話をするよりも、文字で書いて伝えた方が伝えやすいですか？	1.はい	2.いいえ
36. あなたは自分の気持ちを人に伝えるときに、直接会って話をするよりも、その人と会わずに電話やメールを使って伝えた方が伝えやすいですか？	1.はい	2.いいえ
37. あなたは自分専用の携帯電話を持っていますか？	1.はい	2.いいえ
以下は、上の質問37で「はい（自分専用の携帯電話を持っている）」と答えた人だけが回答してください		
38. あなたは携帯電話を常に手元に置いておかないと、不安になりますか？	1.はい	2.いいえ
39. あなたは携帯電話を使うことで、友達との仲が深まったと思いませんか？	1.はい	2.いいえ
40. あなたは携帯電話を使うことで、友達と楽しい話をする時間が増えたと思いませんか？	1.はい	2.いいえ
41. あなたは携帯電話を使うことで、友達と自分の悩みについて話をする時間が増えたと思いませんか？	1.はい	2.いいえ

質問は以上でございます。ご協力、どうもありがとうございます。